



平家女護島の1場面

広報

ひがし しらかわ

1992
平成4年

10

No.378

- 発行/東白川村
- 編集/企画財政課
- 岐阜県加茂郡東白川村神土
〒509-13 ☎05747(8)3111
- 印刷/下呂印刷株式会社

人口の動き

—9月末住民登録人口から—

世帯数	9 2世帯
人口	3,451人
転入	6人
転出	2人
出生	2人
死亡	5人

先月と比較して1人増
 昨年と同月と比較して
 19人減

拍手喝采！郷土歌舞伎

さわやかな秋晴れとなった秋分の日、恒例の郷土歌舞伎公演が、中学校体育館を会場に行われました。今年で復活して16回めとなるこの公演に、中京村人会の皆さん23名をはじめ、村内外から約300名の皆さんが特設舞台に詰めかけ、中には、持参した弁当に舌鼓を打ちながら声援を送る家族づれの姿も見られるなど、のどかな秋の1日の芝居見物となりました。

(関連記事6ページに掲載)



熱気に包まれた中学校体育館



トマトに注目!

「一億五千万円」これは平成三年度における園芸作物の販売金額です。

トマト、ナスを代表とする園芸作物は、今や村の新しい特産品にまで成長してきました。

今月は、この園芸作物の販売金額のうち約六割を占めている夏秋トマトにスポットをあててみました。

歴史の浅い

農作物

昨年度の農業総販売額は、約七億八千万円。そのうち園芸作物は、全体の十九割を占める一億五千万円余となり、これは、村の特産品緑茶を上まわる好結果となりました。

この園芸作物の五十八・六割を占めているのが夏秋トマトです。下の図は、昭和五十一年から昨年までの農業総販売額とトマトの販売額を比べたものです。昭和六十年に一千万円を突破してから昨年まで順調に伸びてきています。

このトマト作りは、お茶やまゆといった伝統的な農産物に比べ、歴史の浅いものです。減反政策を受け、村で本格的に水稲の転作としての換金作物

栽培、いわゆる

販売用野菜の生産がスタートした

のは、昭和五十年代に入ってからのことです

昭和四十九年

ごろ、安江通さん

(日向)、安江只文さん(黒

淵)らが中心となって越原の一部

地域で夏秋トマト(当時の品種は、米寿など)の栽培を開始

そのころの生産農家は、十戸前後

。現在は二十一戸ですから農家数

がわずかに二倍になったのに対し

、販売金額は、下の図のよう

に十六倍近くにまで伸びてきた

わけです。

このように著しく伸びてきた

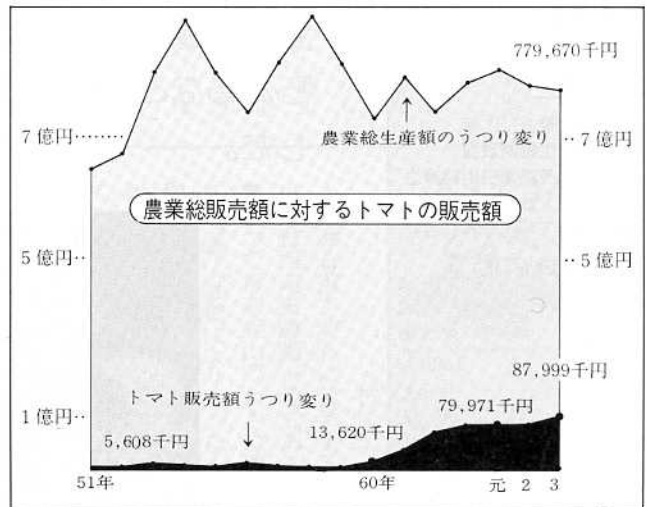
背景には、生産農家のみなさん

が、視察などの研究を繰り返された

ことと規模拡大のための好条件

が備ったことが大きな理由

です。



です。昭和五十六年にスタートした

は場整備、五十八年には「お茶

に続く特産品づくり」を目標に

園芸振興会が結成。また、六十一年

の選果場の建設によって、前

年まで八戸だった生産農家が一

挙に二十二戸まで増えました。

さらに同じ年、品質、日持ち、

輸送性に富んだ甘熟トマト桃太

郎の栽培が開始されています。

平成元年、トマトを含む園芸

作物は総販売額一億円を達成。

トマト作りはわずか二十年で村

農産物の顔となってきています。

高反収が魅力

トマト作りの魅力は、他の農産物にくらべ販売単価が高いこととす。

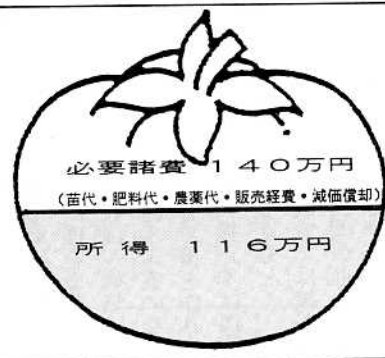
今年も、気候的にトマトの成長面で非常に適した年となり、全国的に豊作となったため、価格も前年を下回るようですが、キロ当たりの平均価格の伸びは、平成元年二百七十円だったのが、昨年は、三百七十五円にもなりました。

十町トマトを生産した場合、生産者にどれくらい所得がある

るかを示したものが下の図です。

まず、売り上げですが、キロあたりの価格を過去三年の平均で三百二十円とし、出荷量の目安を八千詰として計算すると売り上げは、二百五十六万円となります。

夏秋トマト10アールあたりの経営試算



10a あたり
売り上げ
256万円
8,000kg
×320円

次に支出を見てみると、まずトマト作りに必要なものとしてパイプハウスがあります。このパイプハウスと管理機等必要機材にかかる費用を五年で償却した場合、一年で約二十

名古屋の親戚に送ったら……

「以前は、ナスとトマトを少しづつ作って、個人でナスを出荷したりしていましたが、ある年に名古屋の親戚にトマトを送ったところ、このトマトはどこで作っているのかと

ずいぶん喜んでもらったのでそれが本格的にトマトを作るきっかけでした」と語ってくれたのは、早い時期から換金作物としてトマトに取り組んでいる安江通さん(日向)。



安江 通さん

安江さんは、今後のトマト作りについて「現在、作っている桃太郎の品種を見直せば販売がもっと伸びるのでは」と話して下さいました。

三万円。また、箱代、選果料、運賃など販売経費が約七十万円。そのほか、苗代、肥料代、農薬代、その他の諸材費を合わせると約四十五万円となり支出の合計は、約百四十万円となります。つまり十町あたりトマトを作った場合、計算上、手元に入るのは、売り上げの約四十五割の百十六万円となるわけです。

この計算では、キロあたりの単価や収穫量を一つの仮定として出していますが、例えば昨年のようにキロあたり三百七十五円なら、売り上げが三百万円になります。出荷量もトマト作

可愛がれば応えてくれる

「最初、苗が運ばれてきたときには、本当に私にもできるのだろうかと寝れないくらいでした」というのは、今年から六町トマト作りを始めた小池恵美子さん(西洞)。

始めたきっかけは、減反により田が遊んでしまっていたこと、



小池 恵美子さん

一人でも充分こなしていけること。ちなみに村内には、一人で二十二町作っている生産者もありです。

トマト作りは、パイプハウスで行うため与える水の量などが計算できるわけですが、気候条件によって今年のように豊作となり価格が下がってしまう場合もありです。しかし、全国的に見ると栽培面積は減少しつつあり、また、鮮度が第一とされるので輸入物に対して強いトマトは、市場における評価が高い作物です。

十町くらいの栽培面積ならば女性一人でも可能であるとなれば、やはり魅力ある仕事といえるのではないのでしょうか。

(次ページへ続く)

トマト作りは昔ながらの工夫

夏秋トマトを作るうえで最も良い条件は、標高四百〜六百五十メートルまでの中山間の地域で天が広い（日照時間が長い）場所。さらに気温が冷涼で昼夜の温度差が大きいところとされています。

現在、村でトマトを生産している地域は、大明神、黒淵、栃山、日向、曲坂、西洞の各地区。これらは、日照時間の面で少々の難点はあるもののほぼ条件は満たしています。

しかし現実には、大明神地区とほぼ同じ標高にある高山市の産地では、前述のように十何あたり十割収穫しているのに対し村では八割にとどまっています。確かに、日照時間、気温の面などの違いはありますが最も大きな差は、土壌にあるようです。

トマト作りに最適とされる土が、良質の堆きゆう肥。これは、草、わらなどの有機物を腐植させ、土と混ぜ



良い場所は第一条件

て作ったもので、いわば「健康な土」と呼べるもの。この土は保水力も有り、浸透性も良く、しかも肥料を使ううえでも最適な土です。この土づくりは、村でも山草やあぜ草を刈って堆積させて作る農家、あるいはソルゴーという飼料作物を作った堆積させて作る農家など生産農家によってさまざまに行われています。また、まだ効果を百発百中するまでには至らないようです。指導の立場にある農務課でも「トマト作りの歴史がまだ浅く、今後、こうしたことの積み重ねが良いほ場を作っていきます」との見解。

四割程度が現状です。こうした意味で土づくりは、品質や収量の向上のための第一歩となるのです。

期待される

育苗施設

本格的なトマトづくり作業は、定植（苗植え）から始まります。以前トマト作りが小規模だったころは、各農家で種をまき植えたようですが、毎年同じ場所（パイプハウス）で作るため、連作障害によりイチョウ病や青枯れなどの土壌病害が起りました。しかも、夏、秋に収穫するためには、二月のまだ寒い時期に種をまかねばなりません。現在は、病気に強い根（台木）に穂木（実のなる部分）を接ぎ木して苗を作ります。しかし、この接ぎ木は温度、湿度などの調整が難しく、今までほとんどの農家では接ぎ木した状態の苗を四国から入荷していました。来年からスタートする育苗施設では、コンピュータ制御によって接ぎ木が可能になり、この地にあった苗が作られ、この施設の利用によって定植までの大切な時期を自己管理ができる



組合長、安江武一郎さん

人材確保と面積拡大

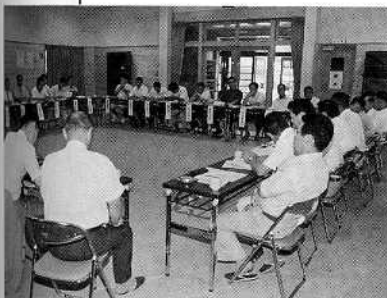
「生産者が全体的に高齢化していますが、今年から新しい地域（西洞）にも二戸生産農家が増えましたし、また、来年からは育苗施設もできる。この施設と選果場を核として、生産者が増えることに大いに期待しています」とPRしてくれました。

農業の明日を語る

去る九月一日、ふるさとセンターで農業の抱える課題を考える「明日の農業を語る会」が開かれました。参加したのは、農業各分野（茶・園芸作物・養蚕・肉牛）の代表者と議会・農業委員会・農協関係者、村関係者など約四十名。各分野の立場からさまざまな意見が出ましたが、やはり共通した課題は、「農業従事者の高齢化と後継者不足」です。この問題に対し「産業振興公社といった形で、農業全体を企業化し、人材派遣をする」といったような建設的な意見も出るなど、各分野のみ

な意見が出ましたが、やはり共通した課題は、「農業従事者の高齢化と後継者不足」です。この問題に対し「産業振興公社といった形で、農業全体を企業化し、人材派遣をする」といったような建設的な意見も出るなど、各分野のみ

各分野の代表が顔をそろえて



よすになります。

ある生産者は「入荷の時すでに苗に病気があるようなこともあったので、育苗施設ができることには、大きな期待を持っていました」と話していましたが、これからは、新鮮な状態で定植することができ、これは、収穫時の品質、収量の向上には、大きなメリットになるわけです。定植が終わってからは、灌水

好評です！とまとのまんま

「予想以上の好評をいただき、素晴らしい商品と自信が持てました」と話してくれたのは、規格外のトマトに目をつけ付加価値をつけるため



人気沸騰中！

や芽かきといった管理が始まり伸び始めると誘引も大切な作業となります。また、トマトを作るうえで怖い病気を防ぐための消毒も大切な作業です。収穫の時期は、七月の上旬から十一月の上旬まで、特に八月九月は最盛期で、忙しい時期であるとともに農家にとっては最も嬉しい時ではないでしょうか。新しくできる育苗施設は、十

二万本の苗をつくることも可能です。生産組合では、これを機に現在の栽培面積三・三ヘクタールから六ヘクタールへの拡大を目標に産地づくりに向けて取り組んでいるのです。

生産者の声……

日向の安江敏治さんは、トマト生産者のうちで最も若手。安江さんは選果場が

安江敏治さん



出来た年から始めて今年で七年目になりました。「トマトの出荷は、毎日値が変わるため作っていて作りがいのある作物だと思います。しかも出荷の際に、お金が入ってくるシステムとなっているので、収穫期には、毎日お金が入り若い人にとっては、魅力になります。夏はほとんど休みがありません。子どもたちが夏休みに入っても相手をしてやれないような状態ですが、やりがいはあるし、夫婦で一緒に働いているから、話し相手にもなり、また、子どもたちも親のやっている仕事の内容がわかることはいいことではないでしょうか」と、夫婦でトマト作りをする魅力について語ってくれました。

「エピソードはたくさん

ありますけど特に去年の十九号台風ときは、ハウスごと風でつぶされて本当に困りました」と語ってくれたのは、今年から栽培面積を十ヘクタール増やし二十五ヘクタールに拡大した安江博さん、直子さんご夫妻。以前は、ブローラーを飼っていましたが、選果場が出来たのを契機にトマト作りに転向しました。「確かに、収穫期は夜が明けると同時に始まりますから朝が早



安江博さん・直子さんご夫妻

機構改革と

人事異動

村議会では九月定例会において、任期満了に伴う収入役に桂川直衛さんが、教育委員には田口芳宏さんがそれぞれ再任され

ました。田口さんは、九月三十日開催の教育委員会議で教育長に再選。いずれも十月一日付で就任しました。

また、村では、現在から将来にかけての二大課題とされる福祉、環境問題に対してより適切

にまた、より機動的に対応していくため、機構の一部見直しを行い、従来の民生課を廃止し、同課内の保健係と住民係をそれぞれ課に昇格、円滑な推進を目指します。それに伴う人事異動は次のとおり。()内は前所属課

●異動 十月一日付

【住民課】課長―今井恒行 (総務課付)▽住民係―古田紀代子 (企画財政課)

●保健課

課長―古田政春 (民生課)

●新採用 十月一日付

安江知子 (企画財政課)▽安

江豊子 (東白川病院看護婦)

●退職 九月三十日付

安江恵子 (民生課)▽伊藤み

ちよ (東白川病院)

※課名変更に伴う異動については省略します。



話題満載!

村芝居



弁天少僧、林昇さん

復活十六回めを迎えた、郷土歌舞伎公演。今年も好演技が続出し、大成功を収めました。今回、注目を集めたのは、役者陣が大きく若返ったことではないでしょうか。そうした新しい顔、新しい役者たちを追ってみました。

舞台を飾った

子どもたちの熱演

郷土歌舞伎といえば、地元のベテラン名優たちの年期の入ったすばらしい名演技も、毎回大きな話題となるわけですが、こうした名優たちの演技もさることながら、毎回キラッと光る演技を見せてくれる小、中学校の子どもたちの活躍ぶりも見逃すことはできません。

今年、舞台上上がったみなさんは、総勢三十六人でしたがそのうち小、中学生が九人出演。最年少は、小学校一年生の安江彩佳さん(大明神)。実は、この彩佳さんは、村の歌舞伎の第一人者、安江一成さんの二女。「自分が



赤塚真美先生

で歌舞伎をやってみえる方からの強い勧誘があ

舞台に立つ時よりも緊張しました」とは安江さんの感想。舞台のすそで我が子の演技をじっと見守る安江さんの姿が印象的でした。

一生に一度の

経験だから

こうした子どもたちの名演技に刺激を受けたのか、今回の郷土歌舞伎の新しい顔となったのが、中学校の先生たちです。

出演したのは、星名晶子先生、赤塚真美先生、細井千暖先生のフレッシュな三人の先生たち。

出演したきっかけは、「こうした伝統芸能に興味がありました

し、PTA会員

で歌舞伎をやってみえる方からの強い勧誘があ

道路標識、お困りのことありませんか

標識は、地理の不安なドライバーに目的地までの経路や距離などの情報を提供し、交通安全と円滑な流れを確保し、交通事故を防止するうえで大きな役割をはたしています。

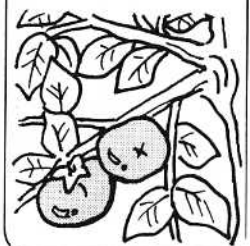
国・県・市町村では、道路管理者として利用者の立場に立つたわかりやすい標識の整備に努めています。ふだん車を運転していても気づきの点やアイデアがありましたら、お気軽に次のところまでがきか封書であなただけのご意見をお寄せ下さい。〒500岐阜市藪田一―一県庁標識BOX係、または岐阜県警察本部標識BOX係まで。

医薬品は正しく

注意して使いましょう

十月十七日から二十三日までは「薬と健康の週間」です。医薬品は使用上の注意をよく

おしらせ



読み、使用期限、用法用量などを守り正しい使い方をしなければなりません。特に高齢者のかたは、肝・腎機能の低下のため、副作用が起こりやすくなりますから注意しましょう。

また、複数の病院または診療科目のかけもち受診をすると、重複投与や相互作用による危険が生じる場合もあります。このため薬剤師による薬歴管理、服薬指導を通じて薬の重複投与や副作用を防止するなど医薬分業を推進しております。医薬品の知識と正しい使い方に対する認識を高めましょう。

もし、医薬品の使用や保管方法について不明な点がありましたら、医師、薬剤師など薬の専門家にご相談下さい。

母子家庭の

みなさんへ

離婚、死別などにより父がいない(あるいは父が障害者である)十八歳未満の児童を扶養し

ひと味違った思い出を

今回、舞台上上がるため、岐阜市から練習に通い、「ひらがな盛衰記―源太勘当の場」で腰元千鳥の大役を見事演じた平出身の若井佳子さん(25)。若井さんはお父さん新一さんの影響で中学校の間に三回、舞台に立った経験の持ち主。しばらくは見ると立場にあつた若井さん、再び舞台上に上がるきっかけとなつたのは十一月に結婚が決まつたからだそうです。

「短期間でしたが、職業や年齢に関係なく一つの目的を成し遂げたことは、素晴らしい思い出となりましたし、結婚を前に両親に、ひと味違った思い出を残せたことは幸せでした。これからも後継者をどんどん増やして東白川の歌舞伎の伝統を守って頂きたいと思えます」とその胸の内を語ってくれました。



熱演中の若井さん

つたから」だとか。「おそろく一生に一度のことですし、素晴らしい経験になりました」とは赤塚先生のご感想。

三人の先生とも台詞の多少の差はあれ、いつも教壇で生徒と接する時とは一味違った緊張感の中で、無事舞台を終えました。中学校の熊崎校長先生は、「こういう地域の行事に若手の先生たちが積極的に参加してくれたのは、本当に頼もしいことです。今後ともこうしたことはどんどん推進したい」と感想を語って下さいました。

伝統芸能を

残していきたい

今回の郷土歌舞伎公演には、四月発足した中京村人会のみなさん二十三人も里帰りツアーを兼ねて観劇。「村に舞台があつたころを思い出しました。機会があれば、村人会の中から役者として舞台上上がってみたい」「こうした文化は、絶対残すべき」といった感想が聞かれましたが、こうした感想が聞かれたのも、その理由の一つには、若い世代が育ち

でしょうか。

子どもたちや先生たちは、前述したとおりですが、昨年は、台詞の無い踊りだけの歌舞伎舞踊に出演した青年団のみなさんも今回からは、台詞がある役者に挑戦。十数回という短い練習期間の中で難しい台詞や立ち居振る舞いに至るまで見事に演じました。

公演後、主催者である愛好会会長の安江正逸さん(下親田)は「今後、開催していくにあたっては、歌舞伎になくはならない浄るりや三味線を行う人が高齡化してきたことなどいろいろな問題がありますが、若い芽が育ってきているのだからできる限り努力していきたい」と力強く語ってくれました。



安江一成さんの見事な演技

図書コーナー

きいろいバケツ



森山 京 著
実に純真な子供心が描かれて、かわいくすがすがしい感じでした。こんなにも物を大切に思う子供は、現実の社会の中ではなかなか見つからないのではないのでしょうか。

推薦人 (67歳 女)

君の恋のつづきを占おう

だれにでも恋の悩みはあるけれど、この悩みばかりは答えが出ない。恋に行きづまったとき読んでみるのもいいかもしれない。自分の恋を分析するみたいにな……

推薦人 (26歳 女)

秋元 康 著



ている母、または養育者に対して、児童の福祉増進のため児童扶養手当が支給されます。詳しいお問い合わせは、役場住民課(有線二一六二)まで。

会社員の奥さん!
こんな時は必ず届出を

次の場合には、役場へ国民年金の届け出が必要です。(一)内は届け出の際印鑑、本人・配偶者の年金手帳の他に必要なもの。

▼会社員と結婚して、ご主人に扶養されるようになったとき、または、あなたの収入が減ってご主人に扶養されるようになったとき(健康保険証)▼ご主人たとき(健康保険証)▼ご主人の年金制度が転職などで変わったとき(健康保険証または共済組合員証、離職年月日を証明できる書類)▼ご主人が定年等により会社を退職したとき(退職の年月日を証明できる書類)▼あなたの収入が増えご主人から扶養されなくなったときや離婚したとき(扶養からはずれた年月日を証明できる書類)▼会社・工場や役所などを退職してご主人に扶養されるようになったとき(健康保険証、退職年月日を証明できる書類)▼あなたが会社・工場や役所などで働くようになったとき(健康保険証または共済組合員証)

熱気

ただいま、青春真つただ中
目指すはきんさんぎんさんです

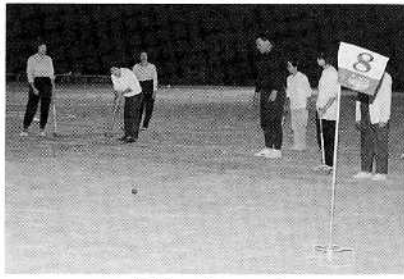


「玉送り、に大ハッスル！」

敬老の日、恒例「老人まつり」が中学校体育館で行われ、二百人が参加、玉入れなどのゲームに気持ちよい汗を流しました。現在村に九十歳以上の方が二十三人みえますが、この日は、九十五歳の安江正郎さん（上親田）を筆頭に、六人が参加。中でも久須見の古田徳市さん千代さんはご夫婦で参加されるなどまさに青春真ただ中です。

挑戦

子どもからお年寄りまで
楽しめるニュースポーツ登場

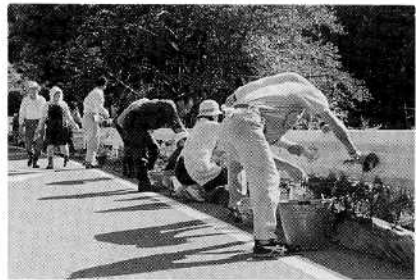


ルールは簡単。誰でも楽しめます

「グランドゴルフ」ってご存知ですか？昭和五十七年鳥取県で開発されたニュースポーツで、場所を選ばず、専用のステイックとボールを使いホールポストに入れるまでの打数を競うゲーム。いわばゴルフのミニ版。九月に二度開かれたグランドゴルフ教室には約五十人が参加。十月中に再度教室が開講予定。興味ある方は、ぜひご参加を。

美化

スタートは会員のアイデア
から商工会一日奉仕

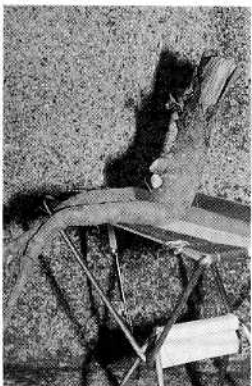


ガードレールは新品同様に

九月最後の日曜日となった二十七日、村の商工会員のみならず約百五十名が、一日奉仕作業を実施しました。この奉仕作業は、今回で三回目。始めるきっかけとなったのは、一昨年の商工会結成三十周年の折、会員のみなさんが集まって「何か記念として後に残ることをやろう」とのアイデアから生まれたもの。

芸術

見事なまでの脚線美
畑で見つけた芸術の秋



見ようによって女性に見える！

話題でした。

「新人類」といわれる近ごろの若者たちは、考え方がかりでなく生活様式の変化に伴い、体型までも大きく変化し、背が高

く、足は長く、スタイルの良い人が増えたとか。西洞の今井秀雄さんの畑でとれたゴボウもまさに新人類？。見ようによっては、本当に人が座っているように見えます。

当初はその年だけと事務局では考えていたようですが、昨年そして今年と会員のみなさんから「今年もぜひ」という意見が出され三回めとなりました。奉仕内容は、大工さんや、電気工事などに携わるみなさんが小中学校、三保育園の破損箇所を修繕する営繕奉仕と、ガードレールの清掃、空カン拾いなどで、集められた空カンは段ボール二十箱にもなりました。

■戸籍の窓—敬称略(九月)



誕生おめでとう
ございます

(陰地) 大坪七三男 剛トシ
穂奈美 (長男)
(下親田) 安江 義文 未紗紀ミサキ
由美子 (長女)

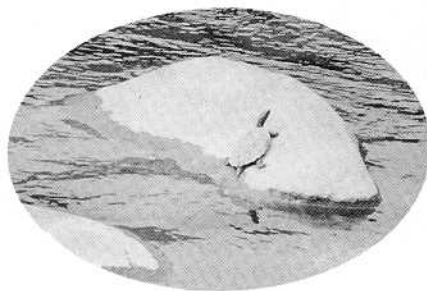
おくやみ
申しあげます

(い) 安江 正義 76歳(黒淵)
伊藤 五郎 91歳(栃山)
(け) 安江 兼六 86歳(黒淵)
栗本 勇 73歳(平)

寺坂はまゑ 72歳(下野)
■善意の寄付—敬称略

話題

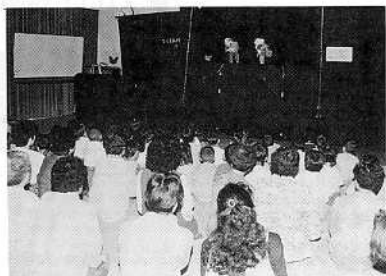
寒いのは人間だけじゃありません
日光浴する亀出現！



平の高橋の下の岩場に午前中になると必ず現れる「動く石？」
実は、この正体、石ではなくて石亀。体長三十センチはあろうかという亀だけに、上から見てみると確かに石に見えなくもありません。
どうやら九月中旬に入ってから急激な冷え込みにまいっているのは人間だけではないようです。

参観

おじいさんやおばあさんと
一緒に楽しい人形劇



人形劇は「おむすびころりん」

神戸保育園の祖父母参観日に
素敵なお客様がありました。
お客様は美濃加茂市からみえた「つくしんぼ」というボランティアの人形劇グループ。
実は、このグループを率いているのは、社会教育主事として村にお越しいただいている井上光彦先生の奥さん恭子さん。
人形はもとより舞台から全て手作りだそうです。

奉仕

二百五十人が元気に参加
老人クラブ社会奉仕の日



越原長寿会のみなさん

毎年行われている老人クラブの環境整備、今年も九月十日と二十日の二日間に分け、村の七つの老人クラブのみなさん約二百五十人が参加し、鮎シーズンなどの清掃を行いました。
参加されたお年寄りは草刈りなどはお手の物、かまや草刈機などおもしろいように操る姿が印象的でした。

快挙

アンドリユー効果！
初挑戦で見事優秀賞



喜びの安江洋さん

十月三日、岐阜市で開かれた「第四十四回高松宮杯全日本中学校英語弁論大会岐阜県大会」(読売新聞社など主催)弁論の部において参加者八十四人中、優秀賞八人の中に東白川中学校二年生の安江洋さん(平)が見事選ばれました。
伝統あるこの大会ですが、東白川中学からの参加は初めて。大会への参加については、英

【社会福祉協議会へ】
現金二千四百円 田口三子(平)
現金五万円 安江輝行(黒淵)
【東白川中学校へ】
トロンボーン一台 村雲昭仁(曲坂)

■工事入札の結果

①は入札期日 ②は落札金額
および落札業者

〔ば〕 沢尻橋下部第二期工事
①九月二十九日 ②一千三百

〔じ〕 八十万二千円、山田土建(株)
▼村単舗装第四号工事(穴沢南線 黒淵)

〔い〕 ①九月二十九日 ②百三十三

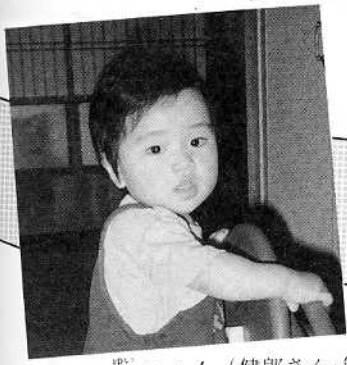
〔け〕 万九千円、(株)立保土木

▼誘遊街道路新設工事
①九月二十九日 ②一千六百六十八万六千円、山田土建(株)

語が大好きな安江さんが、自分で希望したとのこと。内容については、日ごろ安江さんが考えている村の姿やAET(英語指導助手)アンドリユーさんの見た村の姿などを通して村を紹介したものです。

今回は、全国大会への三人に選ばれなかったものの「来年は全国に挑戦したい」と力強く抱負を語ってくれました。

満1歳



▲安江 唯ちゃん (健郎さん・敏美さん長女=日向)



◀安江元博くん (久光さん・ゆりさん長男=大明神)

ふれあい広場

新婚さん

■ワコ・シヨット■



安江智樹さん・女子さん

この写真は引きのばしてお二人に進呈します。

陰地にフレッシユなカップルの誕生です。四年の交際を経て、この十月四日、越原神社で結婚式を挙げたの

「二世については、お二人とも「元氣な子なら何人でも」と意欲的なご意見でしたが、最初はよく気がつく女の子が欲しいというのは、二人共通した願い。「いつでも笑い声が響いているような家庭が作りたい」と話ししてくれた笑顔の絶えないお二人です。

は、安江智樹さん女子さんご夫妻(陰地)。

お二人は、青年団の活動をおして、どちらからもなくお互いを意識し、また、結婚については、わりと早い時期から考えていたとか。「温かい性格と何にでもよく気がつくところに惹かれました」とご主人智樹さんが話せば、奥さん女子さんは、ご主人について「頑張り屋で、無器用だけど優しい人」とは、しっかりしたおノロケ。

ふるも道具の生活史

①

▽石 △

人類にとって一番最初の道具となったものは石であった。私たちの村にも石器時代の遺物らしい大型石鏃状石器(中谷出土)などが残されていますがそれらの石器を使って、先祖たちがどのように暮らしていたかを明らかにするには、あまりにその数が少ないといえます。何しろ今から一万年以上もむかしのことですから……。

そんなに遠く遡らなくても、つい四十年ほど前までは私たちの生活の中に「自然の石」は重要な役割を果していました。道具という分類からは外れませんが、板葺きの屋根の重しに乗せた石、田圃の石垣。これらは東白川村という自然景観をかたちづくり、なつかしい田舎のたたずまいをみせてくれました。

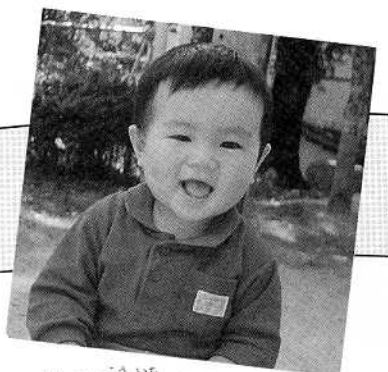
先月号でふれた稲藁を打つ石は、丸くて扁平な川原石が、どの家の土間にも必ず一個は据え



てあったもので、不思議なことに表面のちよつとしたカーブの違いで、むら無く藁が打てる石と、そうでない石がありました。コンクリートを硬質ビニールで包んだものにだいたい代って来ましたが、まだまだ現役でがんばっているのが漬物石です。しっかりと重石が効かないとおいしい漬物になりません。

大きな桶に漬け込んだ沢庵漬の大根を、ぎゅうーつと押して水があがったら少しづつ軽くするには、重石を三つくらい重ねなければなりません。

石の形によって、一番下と、中と、上の順番が決っていて、新しい嫁さんは姑さんからまずそれを習い、満身の力を込めてよっこらしよと自分のお腹の上に乗せながら桶に移します。こうして数年経つとしだいに実権も移って、漬物の味もまろやかになるのであります。



▲牧野鴻一くん
(友紀央さん・美幸さん長男一陰地)

郷土歌舞伎で活躍した中学校の三人の先生から楽しいお便りをいただきました。

A.. あーあ。歌舞伎終わってしまったね。なんだかあつという間だったね。

B.. 本当。夢中で何が何だか。大失敗だけはしなくて、ほっとしたよね。

C.. 私たちが出演するだけで足を引張っているのに、舞台で立ち往生なんてことになったら、申し訳なくて村の中

歩けないものね。

A.. でも、いつもよりちよつと美しくなれて嬉しかったよね。

C.. うんうん。(ちよつと?)

B.. (あの豪快な男役の私だった、格好のいいこと……)

A.. ところで、一生懸命練習したつもりだけど、いつまでたってもいっこうに口調も立ち居振舞も様にならなくて。大変なことわかっていただけ……。

C.. まったくね。でも、親切に教えていたいただいて、私たち幸せだよね。

B.. 私たち、本当に歌舞伎に出

たんだよな? あれは夢では……。

A.. すこいよね。

C.. こんな経験、そうそう出来るものじゃないし、よかったね——と、自己満足する私たちでした。

関係者の皆様、そして暖かく見守って下さった皆様。本当にどうもありがとうございます。

東白川中学校・星名晶子、赤塚真美・細井千暖

(文中のA・B・Cについてそれが誰の言葉かは秘密だそうです。)

鮮やかな紫色の花、ナンバンギセルを共存じですか。

イネ科の植物の根に寄生するといわれるこの花、伊藤重雄さん(平)宅のヤマシラススキの鉢に花をつけたものです。



元気です!
働くお年より
内職

「この仕事は、楽しいし、これを始めてからというものの病気もほとんどしなくなりましたよ」と話してくれたのは、明治四十二年生まれ、今年八十三歳になった安江花枝さん(柏本)。

この仕事というのは、四年前から始めたという、自動車の配線関係の部品を作る内職のこと。高齢ということもあって一日中というわけではないそうですが、ご自身「趣味みたいなもの」いわゆるこれほどこの仕事が大好きなようです。

仕事の内容は、ソケットに色の違う何種類もの細い線を通していくもので、かなり細かい作業で手先の器用さと目の良さが要求されますが、花枝さんは、この作業を楽しそうにいと簡単にこなしています。

花枝さんは、以前ひぎに水がたまり、曲げることができないほど痛んだそうですが、三年ほど



「趣味みたいなもんですよ」と花枝さん

ど前から、せんじたどくだみを一日二回湯のみで欠かさず飲むようになって以来水がたまらなくなつたばかりか今では正座しても大丈夫だとか。また、このどくだみ療法を始めてからというものの風邪すらひくことが少なくなったそうです。「昔は、どくだみは風呂に入れたもんですが、せんじて飲むようになってからは、足の痛みはとれるし、風邪なんか本当にひかんようになった」とどうやらこの内職とどくだみ療法は、花枝さんにとつての長寿の秘薬のようです。

花枝さんのご家族は、八人という大所帯。ひ孫さんと遊ぶことは楽しみの一つ。「家の中がにぎわしくていいですよ」と嬉しそうに話してくれました。

